

大石村政4期目始動！



当選証書の交付を受ける大石村長

～村民主役・鶴居スタイルの創造

子供たちの未来につながる確かな村づくり～

任期満了に伴う鶴居村長選挙が去る4月16日告示され、現職の大石正行氏が無投票で再選となりました。

4月22日には、当選証書が交付され、5月20日より4期目の村政がスタートしました。

任期は令和6年5月20日から令和10年5月19日までの4年間です。

また、5月17日に開催された第3回鶴居村議会臨時会において、鶴居村副村長の選任についての議案が提出され、新たに高松一哉氏が任命されることとして同意されました。

任期は令和6年6月1日から令和10年5月31日までの4年間です。



子供たちの未来につなげる 村づくりの推進に向けて

鶴居村長 大石 正 行

去る4月16日執行の村長選挙におきまして、私自身、4期目を目指し立候補させていただき、多くの村民皆様のご理解と御支援などを賜り、無競争による当選の栄誉を授かりました。

浅学菲才な私にとりまして、誠に光栄なことであり、村民の皆様に心から御礼を申し上げますとともに、これまでの3期12年にわたる村政の執行に対して、深いご理解を賜ってまいりましたことに感謝を申し上げます。

これから4年間の村政の執行を考えますと、身の引き締まる思いであると同時に、地域の様々な可能性を探りながら、各種課題に対処していかなければならず、時間の猶予はないものと考えております。人口減少が進む高齢社会への対応や村民の安心安全な暮らしの確保、厳しい経営環境にある酪農対策、地域資源を活用した活性方策や観光振興など、取組む課題は山積しております。

先人、先達が築いた大切な地域の基盤を私たちの手で磨きをかけ、次の時代へ持続可能な姿で引き継いでいかなければなりません。

同時に、私自身がこの度の選挙で掲げた「村民主役・鶴居スタイルの創造」そして「子供たちの未来につながる確かな村づくり」を村政の主眼に置き、「村民に安全安心を届ける村づくり」「産業振興と地域資源を活用する村づくり」「村民協働による活力醸成と確かな村づくり」を進めてまいります。

村民の公平公正な行政運営を基本としながら、地域福祉の充実や酪農畜産の振興、商工業の活性化、教育環境の充実、デジタル環境の整備、タンチョウをはじめとする地域特性を最大限に活かした観光振興など、村民の皆さんが笑顔で元気を出していける環境づくりに努めてまいります。

また、地域には様々な課題や可能性を有しておりますが、村民皆様と情報を共有して、魅力ある村づくりを丁寧に進めてまいります。

私は、あらためてこれからの4年間、初心に立ち返りながら、村民との対話やコミュニケーションを大切に、村民の声を村政に反映させてまいり所存であります。

同時に、鶴居村の歴史やコロナ禍の教訓から学んだ村民の暮らしと地域の営みを守り、地元経済の振興などに、職員とともに全力かつ公明正大な気持ちで様々な行政課題に取り組む覚悟です。

どうぞ、村民皆様には引き続きのご理解を賜りますよう衷心よりお願い申し上げ、引き続きの村長就任の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。



副村長就任のご挨拶

副村長 高 松 一 哉

【高松副村長の略歴】

1971年（昭和46年）1月30日生（53歳）

標茶高等学校、釧路公立大学、北海道教育大学大学院修士課程修了後、北海道大学大学院博士後期課程にて環境科学を専攻し、博士号を取得。

北海道職員から鶴居村職員となり、生涯学習課社会教育主事、産業課商工観光係長、振興課企画係長を経て、2011年（平成23年）に振興課長補佐、2012年（平成24年）に住民課長補佐、2013年（平成25年）に保健福祉課長、2015年（平成27年）に社会福祉法人鶴居村社会福祉協議会事務局長を併任、2020年（令和2年）に子どもセンター長を兼務、2021年（令和3年）に企画財政課長。

他、鶴居村PTA連合会会長、鶴居小学校PTA会長、公益財団法人北斗霊園理事などを歴任

去る5月17日の第3回臨時議会におきまして副村長選任のご同意を賜り、6月1日付で副村長に就任いたしました。このような重責を担わせていただきますことは身に余る光栄であり、日々、職責の重さを実感しています。

約3年にわたって流行した新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上の5類感染症に分類され、人々の行動をはじめ、ようやく元の日々が戻りつつありますが、国内外の動きを見ますと、ロシア連邦によるウクライナ侵攻以降、原油や穀物などの価格上昇が国内における様々な物価上昇をもたらし、皆さまの日々の暮らしや生業に大きな影響を及ぼしています。また、少子化の急速な進展によって、本格的な人口減少時代が到来し、地方自治体を取り巻く情勢も大変厳しいものとなっています。

このような時代において、村民の皆さまが主役である公平公正な村政を進め、村民の皆さまと行政とが共に村の将来像を思い描いていくことが、鶴居村の持続可能性を高めるために大切なことであると考えています。さらに、再発見から100年を迎えた村のシンボル「タンチョウ」を育む、釧路湿原をはじめとした「かけがえのない自然環境」を守り、次の世代に引き継いでいく取り組みも進めなければなりません。

大石村長が目指す『子供たちの未来につなげる確かな村づくり』実現のため、時々の変化に柔軟に対応できる行政人材の育成を図るなど、私自身、もとより微力ではありますが、これまで培ってきた行政経験を生かし、大石村長の補佐役として鶴居村の未来が明るいものとなるよう全力で取り組む覚悟でございます。

どうかこれまでと同様に、村民の皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げ、副村長就任に当たってのご挨拶といたします。



退任のご挨拶

前副村長 長 尾 法 明

5月31日をもって鶴居村副村長を退任いたしました。

新型コロナウイルスの猛威が国内で始まった令和2年に就任してからの4年間、鶴居村の行政運営に携わり、また、村民として過ごさせていただきましたこと深く感謝申し上げます。

大石村長はじめ役場職員皆さんの積み重ねられた知識と経験、また、松井議長はじめ議員皆さんの深い寛容力に助けられ、そして、何より村民の皆さんの厚いご理解とご協力を賜り、コロナ禍における住民の健康確保や産業の底支えをはじめ、アフターコロナに向けての振興策に励むことができました。重ねてお礼申し上げます。

全国で疲弊していく市町村が多い中、鶴居村は発展の可能性を持った魅力ある村だと思っています。それはタンチョウや湿原などの美しい価値を有することはもちろんですが、一番の財産は「ひと」と思っています。ここに生まれ育った方々に、鶴居を好み移住されてきた方々が加わり、鶴居村の景色と相まって様々な変化や進化が生まれている村です。「鶴居村は素敵だね」と言われ続ける村づくりに陰ながら応援していきたいと思っています。4年間、本当にありがとうございました。